

第75回西日本学生陸上競技対校選手権

開催日: 2022年7月1日(金)~3日(日)

場所: 愛媛県総合運動公園陸上競技場

種目	名前	学年	記録	着順	備考
800m	室山 優奈	1年	予選敗退		予選8組7着 2分25秒08
1500m	松井 あれさ	1年	予選敗退		予選3組6着 4分42秒57
	室山 優奈	1年	予選敗退		予選1組7着 4分48秒10
5000m	三輪 南菜子	2年	16分22秒39	1位	
10000m	矢尾 桃子	4年	36分00秒59	3位	
3000mSC	札幌 美桜	1年	10分56秒87	3位	
	増原 なつみ	2年	途中棄権		

【山本コメント】

本大会は、関西、東海、中国四国、九州の4地区の学連による対校選手権大会で、4地区の学生陸上競技アスリートにとっての最高峰の大会である。直近2年間は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止になったが、3年ぶりに開催され、本学女子駅伝部から6名の学生が出場した。梅雨明けの真夏の容赦ない日差しが降り注ぐ、長距離種目としては厳しいコンディションの条件下で勝負を競い合った。

5000mでは、三輪がラスト1週の時点で一騎打ちの状況となり、ラスト250mからスパートして振り切り、優勝を果たした。三輪は昨シーズンの今頃はけがで苦しい時期を過ごしていたが、今季は手応えのあるレースを順調に積み重ねており、今回はその成果として優勝に結びついた。また、10000mでは矢尾が終盤までしぶとく粘って3位、3000mSCでも札幌が挑戦的に走って3位、と、合計3名の学生がそれぞれの種目で表彰台に上ることができた。今回の成果を自信にして、さらに上位の大会での活躍と、よい気象コンディション下での好記録を目指してほしい。その他の出場選手は上位進出はならなかったが、今回のレース経験をステップにして、今後の上位大会、秋の駅伝につなげてほしい。

今大会は3年ぶりに開催され、学生たちにとって貴重な経験の場となった。今の学生たちは、コロナ下で様々な制限がなされ、多くの苦労を重ねてきた世代だが、今大会での経験、今大会のために積み重ねてきた準備の経験を糧にして、今後の大会、今後の人生の経験に活かしてほしい。本大会の3年ぶりの開催にあたり、準備、運営にあたってくださった中国四国学連の皆様、愛媛県陸協の皆様にご感謝申し上げます。